

様式第 2 (第12条関係)

加入国際學術団体に関する調査票

1 国際學術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団体名	和	国際経済史協会
	英	International Economic History Association (略称 IEHA)
	団体 HP (URL)	http://www.ieha-wehc.org/ (日本学術会議が加盟していることの記載 有)
国際學術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		3 年に 1 度の世界経済史会議 (World Economic History Congress, WEHC) は昨年米国ボストンで開催された。同会議ではプレナリーセッションのテーマとして “Waves of Globalization and the Economic Historian,” “Rising Inequality and the Changing Structure of Political Conflict,” “The Role of Women in Economic Growth” が取り上げられた。
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について		上記のプレナリーセッションのテーマ、グローバリゼーション、所得分配、ジェンダーと経済はいずれも今日の世界が直面している喫緊の課題であり、政策的含意も大きい。
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて		2012 年～2015 年、2015 年～2018 年の期間、日本人研究者 (岡崎哲二) がそれぞれ IEHA の副会長と会長を務めた。2015 年の世界経済史会議 (京都) は彼がローカルコミッティの委員長として組織し、また 2018 年の世界経済史会議は彼が IEHA 会長として主催した。これによって、それまでヨーロッパ中心に行われていた世界経済史会議が真にグローバルな実質を持つようになっていく。
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて		国際学会の会長を日本人研究者が務めるケースはそれほど多くないであろう。経済史は日本人研究者がイニシアティブを發揮できる分野であり、日本の学界全体の世界におけるプレゼンスを上げることに貢献している。また京都での世界経済史会議をきっかけとして日本人研究者の参加が増加している。
その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際學術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など)		経済史は女性研究者の役割が大きい分野であり、IEHA については現会長と前々会長が女性研究者である。 世界経済史会議では、途上国から参加する若手研究者に IEHA が旅費の支援を行っている。

様式第2 (第12条関係)

2 今後の予定について (内規第11条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)	2015年に京都で開催したため、当面は開催の予定はない。
日本人の役員立候補等の予定について	現在、日本人研究者が名誉会長・理事 (岡崎哲二) と理事 (城山智子) を努めている。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	パリで開催される次回の世界経済史会議を理事会での活動を通じてサポートしている。

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第11条 活動報告)

総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去5年間及び今後予定されているもの)	総会開催状況	2015年 (開催地: 京都)、2018年 (開催地: ボストン)
	理事会・役員会等開催状況	2013年 (開催地: 京都)、2014年 (開催地: アムステルダム)、2015年 (開催地: 京都)、2016年 (開催地: ボストン)、2017年 (開催地: アムステルダム)、2018年 (開催地: ボストン)
	各種委員会開催状況	
	研究集会・会議等開催状況	2015年世界経済史会議 (開催地: 京都) 2018年世界経済史会議 (開催地: ボストン)
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定		2015年、総会 (京都)、約30名 2018年、総会 (ボストン)、約5名 2013年理事会 (京都) 1名 2014年理事会 (アムステルダム) 1名 2015年理事会 (京都) 1名 2016年理事会 (ボストン) 1名 2017年理事会 (アムステルダム) 1名 2018年理事会 (ボストン) 2名 2015年世界経済史会議 (京都) 294名 2018年世界経済史会議 (ボストン) 約100名

様式第2 (第12条関係)

	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去5年)	理事・副会長	2012～2015	岡崎哲二	(22、23期) 連携
	理事・会長	2015～2018	岡崎哲二	(23期) 連携
	理事・名誉会長	2018～	岡崎哲二	(24期) 会員
	理事	2018～	城山智子	(期)
		～		(期)
		～		(期)
		～		(期)
出版物	1 定期的 (年1回) 主な出版物名 <i>Newsletter</i> 2 不定期 () 主な出版物名			
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 http://www.ieha-wehc.org/newsletters.html				

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第3条、4条、5条)

国内委員会 (内規4条第3号)	委員会名	経済学委員会 IEHA 分科会
	委員長名	岡崎哲二
	当期の活動状況	(開催日時 主な審議事項等) 2017年12月14日※メール審議 ・IEHA 理事会に関する諸報告 ・分科会役員について 2018年5月26日 (大阪大学経済学部) ・世界経済史会議 2018 の準備状況について
内規第3 (国際学術団体の 要件関係)	国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である 1. 該当する ※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (http://www.ieha-wehc.org/statutes.html)	
	各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か) 1. 該当する ※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (http://www.ieha-wehc.org/member-associations.html)	

様式第 2 (第12条関係)

<p>下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印)</p> <p>○ア 個々の学術の専門分野における統一かつ世界的な組織を有するもの</p> <p>イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一かつ世界的な組織を有するもの</p> <p>ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの</p> <p>エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</p>	
<p>10 ヶ国を超える各国代表会員が加入している</p> <p>1. 該当する</p>	
<p>加入国数及び 主要な各国代 表会員を 10 記載</p>	<p>(37 ヶ国)</p>
	<p>・ 各国代表会員名 / 国名</p> <p>(アメリカ) Economic History Association</p> <p>(イギリス) Economic History Society</p> <p>(フランス) Association Francaise d'His toire Economique</p> <p>(ドイツ) Gesellschaft fur Social-und Wirtschaftgeschichte</p> <p>(イタリア) Societa italiana degli stoci dell'economia</p> <p>(カナダ) Canadian Network for Economic History</p> <p>(ロシア) National Committee of Historians</p> <p>(中国) Chinese Association for Economic History Studies</p> <p>(インド) Indian Economic and Social History Association</p> <p>(ブラジル) Associação Brasileira de Pesquisadores em História Econômica</p>